

令和7年度国立障害者リハビリテーションセンター学院  
学校関係者評価委員会報告

各評価項目について

<p>1 教育理念・目的・人材育成像</p> <p>○項目1～4に関し、学院各学科の教育目的や人材育成方針などについて応募者・学生ニーズの多様化に応じた柔軟な対応の実施や、修学困難例の実態などについて審議された。とくに職能資格の法的制定がされていない学科について、各学科における教育方針・体制による独自の人材育成像と、応募者・学生側とのニーズのマッチングについて、教育組織としての教育体制整備、および今後の拡充について説明がなされたことから、学科自己評価について承認された。</p>
<p>2 学院運営</p> <p>○学院の情報システム化等による業務の効率化（項目10）に関し、オンライン及びオンデマンド形式の活用例について審議され、同形式へのアクセスが困難な学生への対応や、感染防止対策状況から継続利用の有用性が説明された。項目5～10について昨年度と同じ自己評価は適切と承認された。</p> <p>○オンライン等の教育手法導入の経緯と、当該講義受講者の単位認定について協議された。すなわち、対面授業とオンライン授業での割合、感染症対策（COVID-19）による特例的対応と通常教育課程としての認定についてである。本会議後に、遠隔授業は“4分の3を超えないものとして上限を設定できる”（文部科学省通知）、活用における考え方の明確化等、柔軟な解釈があることを事務局が確認を得た。本年度のオンライン等教育手法導入・活用による教育単位・課程認定の妥当性と学科自己評価について承認された。</p>
<p>3 教育活動</p> <p>○授業評価の実施・評価体制（項目16）について、現在、評価形式を協議中であることから、昨年度「3」から「3.2」とされ、また資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけ（項目18）について各学科の自己評価の背景について補足説明され、昨年度「4」から「3.9」の増減要因について承認された。</p> <p>○委員質問（項目18）について、各学科から、カリキュラムの中での体系的な位置付けを踏まえた教育主旨であることが説明された。</p> <p>○項目16、18以外の項目11～21の昨年度と同じ自己評価は適切と承認された。</p>
<p>4 学修成果</p> <p>○「就職率の向上が図られている」（項目22）、「資格取得率の向上が図られている」（項目23）に関し、委員意見のとおり実績の向上が評価された。</p> <p>○「退学率の低減が図られている」（項目24）に関し、委員質問で退学率の低減の実績や、QUアンケートの結果及び導入時期を確認した。</p> <p>○項目22～26の昨年度と同じ自己評価は適切であると承認された。</p>
<p>5 学生支援</p> <p>○「卒業生への支援体制」（項目31）について、昨年度「3」から「3.2」の向上と評価した要因について補足説明がされた。</p> <p>○「学生相談に関する体制の整備」（項目28）に関し、各学科の具体的な相談内容・事例、また合理的配慮の提供について確認され承認された。</p> <p>○「課外活動に対する支援体制の整備」（項目30）、「社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備」（項目32）に関し、各学科固有の状況を背景とした課題と実績について説明され、項目27～33の自己評価は適切であると承認された。</p>

<p>6 教育環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○項目 34～38 に関し、協議の上、各学科の自己評価は適切とされた。</li> <li>○「防災に対する体制整備」（項目 37）については、昨年度からの防災を踏まえた環境整備の進捗が確認され、避難経路についての整備進展がないことについての指摘があり、昨年度と同じ自己評価継続とされ、今後の改善が期待された。</li> </ul>
<p>7 学生の受け入れ募集</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「学生募集活動は、適正に行われている」（項目 40）点について、過去5年間の参考資料4（入学定員・入学者数）を参照し協議された。入学定員割れ状況を示す各学科から、現状と背景等の説明にもとづいて改善に向けた協議が行われた。入学応募者数の実績は、募集活動としてのオープンキャンパス活動の充実が有効であるという指摘があり（資料一別紙 過去5年応募人数・オープンキャンパス参加人数）、定員割れ状況の改善に向けてオープンキャンパスの参加者拡充に向けた取り組みについて勧奨された。</li> <li>○項目 40 に関しては、社会的状況や本年度学科取組みが適切であるという観点から学科自己評価「4.0」を支持委員1名、「どちらともしがたい」委員1名、他項目評価と比べて「3.0」と修正とする委員3名という評価協議を踏まえて、「3.0」に修正とすることが委員会として承認された。</li> <li>○修正の項目 40 以外の項目 39～42 の昨年度と同じ自己評価は適切であると承認された。</li> </ul>
<p>8 法令等の遵守</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○項目 43～45 に関し、委員意見のとおり自己評価は適切であると承認された。</li> </ul>
<p>9 社会貢献・地域貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○項目 46～47 に関し各学科説明について協議され自己評価は適切とされた。</li> <li>○「学科の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っている」（項目 46）、「学生のボランティア活動を奨励、支援している」（項目 47）に関し、多職種連携に向けた短期特別研修、体験授業の対象者や内容についての協議、その他の実績の説明に基づいて項目 46～47 の昨年度と同じ自己評価は適切であると承認された。</li> </ul>
<p>10 全体を通して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○評価項目以外の協議事項として、近年、臨床現場で課題とされている、カスタマーハラスメント対策について委員より質問があり、令和7年度に学院独自の「カスタマーハラスメント防止等手引ワーキンググループ」の取組みについて説明された。</li> <li>○R6 年度学校評価では、各学科・学院として PDCA サイクルを踏まえた自己評価を導入し、同評価結果に基づいて、学校評価委員としての協議が行われた。PDCA サイクル様式により、単年度自己評価では教育実績と課題の理解が可能になり、協議後に次年度方針が明示され、今後の学院の発展への貢献が期待された。</li> </ul>
<p>11 次年度への引継ぎ事項・その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○事務局より「7 学生の受け入れ募集」に関して、令和6年度自己評価の修正を踏まえて、学生募集活動の適正化について改めて確認された。</li> <li>○国立の教育組織の特性を踏まえた独自の教育体制であるが、今後、長期的な見通しに立って時代の要請と多様化した学生ニーズ（メンタル面を含む）に応じた内容の精査と展開が期待される。</li> <li>○PDCA サイクルの導入により教育成果と進捗状況が可視化し共有された。各学科の職能や教育理念の多様性を尊重し、教育計画の立案と実施について学科の自己評価に基づいて、単年度評価が積み重ねられ、今後の一層の教育体制の発展が期待された。</li> </ul>